

令和3年度 第1回高知県スポーツ振興県民会議 議事概要

日時：令和3年11月10日（水）13：30～15：30

場所：ザ クラウンパレス新阪急高知 3階「蘭の間」

出席：委員20人中16名が出席（代理出席1名を含む）

議事：

- （1）令和3年度スポーツ施策の進捗状況について
- （2）Ver.5に向けたスポーツ振興の強化ポイントについて
- （3）その他

1 開会

2 知事挨拶

3 議事

（青木会長挨拶）

議事（1）：令和3年度スポーツ施策の進捗状況について

（武市委員）

○地域のスポーツ振興に関する施策について、サッカーに例えれば、サッカーコート内がこういう施策だと思います。我々、地域のスポーツクラブはサッカーコート外をどういう風にコーディネートしていくのか、地域のスポーツクラブと社会教育をどのような形に組み合わせていくのが大切だと思います。

総合型地域スポーツクラブ連絡協議会理事長としては、ひとつひとつの地域のスポーツクラブの認知や活動の連携が、まだまだ受け皿的には足りていないと感じていますので、県や自治体のご支援をいただきながら、もう一步踏み込んだ活動をする必要があると感じています。

（事務局）

○県としても、高知県スポーツ協会としっかりと連携させていただき、総合型地域スポーツクラブの充実・発展のために可能な限り支援して参りたいと考えています。

（青木会長）

○総合型地域スポーツクラブは今後重要となってくるだろう。10日付けの高知新聞朝刊にソフトボールの日本リーグチーム、高知パシフィックウェーブ選手による小中学生を対象とした体験教室の記事が掲載されており、土佐市の総合型スポーツクラブが主催ということであった。色々なところとの連携で実施することが大事だと感じました。

(高岸委員)

○高等学校におきましては全国のインターハイが来年度、四国開催で高知でも開催されるということになっています。そういった意味で各学校でそれぞれに部活動も学校の特色部分というところで行っているところですが、皆さま方ご承知のとおりコロナウイルスの影響でなかなか思うように練習ができておらず、練習する際にも今まで以上に色んな対策を取らなくてはならない等々がありまして、非常に練習環境としては厳しい状況が続いております。

また、もう一つ教職員の働き方改革等々の指導もありまして教職員もやりたいけれども、そのやり方を色々工夫をしなければならないということがあり、子ども達の色んな活動に対し、今年度については十分な支援ができてないというような状況です。だいぶコロナウイルス関係が落ち着いてきましたので、今後はまた以前のような形で色んな形の工夫をし、子どもたちの活動を全面的に支援できるような形で取り組んでいきたいと思っています。

(寺村委員)

○高校生の部活動について、子ども達は限られた短時間で練習をしています。競技によってはマスクを着用したまま練習しているようであり体力的にも頑張っている練習したりしているが、学校現場も色々工夫して対応していただいていると感じています。

ジュニア競技を行うには、保護者の支えが必要です。中でも食事面は勿論、強化選手になると練習も遅くまで行われるので学業との両立の問題もあるほか、保護者の仕事面の問題もあります。子どもを強くする為には、保護者の協力が必要不可欠であると感じています。保護者向けに栄養面や怪我の対応等の講座の充実等について、強化選手だけでなく一般の保護者も参加できるような、保護者目線の体制強化を望みます。

(事務局)

○医科学面の中で栄養のサポート、SSCの中でも栄養のサポートは大坪委員にもご協力をいただいて、栄養サポートをさせていただいておりますが、主に強化選手に対するサポートが中心ですので、今後はできるだけ幅広くサポート、情報が届きますように、SSCの中でも工夫をして対応していきたいと思っています。

(濱田委員)

○以前、私は、くろしおキッズの取組を見学したことがあります。本校（土佐女子）の生徒の中には、小学校6年までくろしおキッズのプログラムにお世話になっていた子どももいますが、インターハイに出場したり、全日本の代表にもなっています。色々なスポーツを実施して、運動能力を獲得するには良い取組と思います。

また、スポーツの技能は、日々の練習で獲得できるが、大きな大会で力を発揮するには精神的な力がないと発揮できないので、メンタル面を伸ばす講座などを取り入れてもらえるとなおよいと思います。

(事務局)

○高知くろしおキッズの取り組みですが、18回のプログラムのうち、基本的には体を動かして競技の体験をしたり、運動能力を高めるプログラムが中心となっていますが、座学も含めて知的プログラムという項目があります。その中で、栄養に関することや怪我の防止に関すること、そのほかには、気持ちの持ち方、コミュニケーション能力を高めるプログラムなども展開しておりますけど、精神的なものを高めていくということも、もう一度立ち返って内容を検討いたしましてプログラムの中身を充実させたいと思っています。

また、SSCではメンタル（精神的）サポートで気持ちの部分をしっかりコントロールしていくということで、矢野委員にもご協力をいただいて展開をしているところであり、今後も充実したプログラムを考えていきたいと思えます。

(遠藤委員)

○今年度のメインのシーズンがコロナ禍の状況でお答えできる材料がないが、高知県はまだまだ認知されていない自然環境や魅力があると思うので、可能性が十分あると感じています。

スポーツツーリズムについては、地域との協力や連携が欠かせないと感じています。また、自然が相手ということから、安全性の確保や、専門性が必要と考えますが、需要は今後も伸びていくと思います。

(事務局)

○スポーツツーリズムについては、特に自然環境を生かしたスポーツツーリズムの部分と、まだまだ伸びしろがあると認識しているアマチュアスポーツ合宿の誘致に力を入れたいと思っています。当然、プロのキャンプなどは継続していくことが重要とは思っておりますが、特に自然環境を生かしたスポーツツーリズムにつきましては、多様な資源が高知県内にまだまだ沢山あると認識しておりますので、そうしたものを地域としっかり連携したうえで、安全性というところもしっかり確認したうえで情報を発信する必要があると思っております。

現在、おこなっております意見交換会の中で、地域ですでにスポーツツーリズムに取り組まれている方を中心にご意見をいただいております。意見をこれからの取り組みにしっかりと反映させてPR強化に努めていきたいと思っております。

(矢野委員)

○高知くろしおキッズに関連して、今回の東京オリンピックで、私がサポートしている選手達が金メダルを獲得するなど、普段の取組の成果を十分に出すことができました。一方で、身体能力の強化だけやっていたら勝てると思っている選手達は成績が上がっていないのが実情です。東京オリンピックに出ている選手の9割程度はフィジカル（身体能力の強化）・メンタル（精神面）の各トレーニングを併用している時代になってきてます。

先ほど濱田委員も仰られたように、子どもの頃からメンタルトレーニングを行う事は、非常に有効なことだと思いますし、思春期に生じる様々な心のトラブルについても乗り越えることができるようになり、そういったことが学校教育においても不登校防止等にも繋がるので、本

県でも是非プログラムに入れていったら良いと考えます。

テーマは変わりますが、先ほどリモートの活用について事務局から説明がありました。本県は中山間地域が多数あり、開催している研修会や講習会に参加できない方にとって非常に有効な手段なので整備をしながら活用していただきたいと思います。

一方でコロナ禍によって子どもたちの体力もずいぶん落ちている事が予想されます。リモートだけでは体力の向上ははかれないので、対面を無くしていくといった方向だけには行かないように、両面を行っていくといった施策がこれから必要になってくると考えます。

(事務局)

○高知くろしおキッズのプログラムのメンタル（精神面）トレーニングにつきましては、先ほど説明させていただいたとおりで、プログラムへの導入もしっかり検討して行きます。

また、リモートの活用につきましては、色々な会議において一般的にリモートが活用される状況になりましたが、みなさんもお気づきの通り、リモートでは温度感が伝わらないなど、マイナス面も当然ありますので、そこは、スポーツの活動においては基本はリアルで対面でということをしっかり軸におきながら、うまくリモートを活用していきたいと思っています。又、リモートを設置、整備している施設、団体の取り組みなど情報共有等もさせていただいて効果的な活用が増えていくようにしていきたいと思っています。

議事（2）：Ver. 5に向けたスポーツ振興の強化ポイントについて

(竹島委員)

○オリンピックが無観客で行われ、すぐにコロナが拡大したため、メダル数が多かったが余韻がなかったように感じています。資料3「オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用したスポーツの振興」について、本県のパラリンピックで準決勝に進出された小松沙季さんですが、元々はバレーボールの選手でした。ジュニアチームから、高校、大学を経て企業チームで活躍中に両足の麻痺があり、車椅子生活になったと聞いています。これまでに厳しい練習をしてきたにもかかわらず、スポーツが好きとのことで、折れないメンタルで次の舞台に進んでいき、カヌーという新しい種目にも出会っています。3年後のパリオリンピックではメダルをとれると思っています。

メンタル面の強化については、私たちが選手の頃は練習を重ねる事が、根性と忍耐でメンタル面の強化に繋がるという意識でしたが、技術の向上もあり、旬な選手の方の話を高知くろしおキッズや色々な指導者の前で、聞けるような機会があれば、これからの若い選手のためになるのではないかと考えます。

(事務局)

○さきほどもお話しさせていただきましたが、高知くろしおキッズのプログラムに組み込むことのほかに、子どもを中心とした体験会等の場面で、パラリンピアンの方々にもご協力いただいて、これまでの取り組みなどのお話をさせていただくことのほか、情報発信サイトの新たな構築もごさいますし、既存のサイトの機能強化というところも検討しておりますので、そのサイ

トの中で本県のオリンピック、パラリンピアンの方のいままでの経験談などもご紹介させていただければと思っておりますので、様々な場面でオリンピック、パラリンピアンの方にご協力いただきたいと思いますと思っております。

(猪野委員)

○スポーツ振興財団は、春野総合運動公園、県民体育館、武道館、弓道場、そして資料3「スポーツ医科学のさらなる活用」に記載のあるスポーツ科学センター（SSC）の指定管理もしています。このコロナ禍の状況で、「春野総合運動公園、県民体育館、武道館、弓道場」の利用者は令和元年の状況に戻りつつありますが、「SSC」については利用が停滞しています。資料の右側に「測定を定期的に行うことはあまり必要性を感じていない」というご意見もあり、どのように利用者を増やしていくのがよいのか、県スポーツ協会にもご尽力いただき、競技団体にも話をさせていただいていますが、伸び悩んでいるところです。強化の方向性として、体制強化ということを書きいただいておりますので、来年度に向けて検討をいただきたいと思いますと考えています。

また、真ん中の表の「飛込」の今年度の利用者数が非常に多く、三重国体が中止の影響等もあり、SSC利用の成果を見る機会がなかったですが、「飛込」においては宮本選手も利用していただけてましたし、中高校生もいい成果をあげてもらっています。限られた面積しかなく利用を増やすのも難しいですが、強化の方向性に日本スポーツ振興センターとの連携強化という記載もありますので、高知県の測定の仕方や、一般利用の仕方について、ご助言いただけたらと思っております。

(事務局)

○競技団体のほうの活用が伸びていただきたいのは当然ですので、SSCとスポーツ課で、強化の方向性に記載のとおり、計画的な活用に向けた支援や、競技の特性を踏まえた具体的な活用事例というのを提案をさせていただくことを考えています。また、飛び込みの利用が多いというところの一因として、活動の拠点が春野にあるということもございまして、近いので活用しやすいというものがございますので、SSCでの施設を活用したサポートが軸ではありますが、出張してサポートを行うことにも力をいれて行きたいと思っております。

併せて、日本スポーツ振興センターとの連携というところでより専門的なご助言をいただくということで、機能強化に務めていくというふうに考えてます。

(藤原委員)

○スポーツの裾野を広げるという視点で、子ども達が楽しくスポーツを行っていくことが大事で、その中で競技力が高まったり、専門性が高まると思います。情報発信について、スポーツに触れる機会が必要であると感じますので、色々な場面でスポーツに関する情報を得られる仕組みが大事だと思います。まずは、スポーツをしてみる、やってみる、競技力を高める為に専門的にやっていくという流れになるのではないのでしょうか。入り口の部分としての情報発信に取り組んで欲しいと思います。

(事務局)

○情報発信についてもサイトの中身の充実、オリンピック・パラリンピアンにご協力いただくこと、アスリートを紹介できる機能を追加するなどしまして、サイトの中身をしっかりと充実させていきたいと思っています。

併せて、情報が早いサイクルで更新されることも非常に大事とっておりますので、マンパワーの問題はございますけれども、できるだけ旬な情報を発信していくことに務めるとともに、このサイトについて説明及び周知をしていくことも大事とっておりますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

(青木会長)

○資料3「スポーツにおけるデジタルの推進」の課題のところ、よりスポーツに親しみやすくするため、という記載がありますが、これに対する強化の方向性としてはどれが該当するのでしょうか。

この計画からさらにやるのは大会とか施設の状況を見るとか、そんな面はスポーツ課がやるのは当たり前だと思います。親しみやすくするのは、例えば、あるスポーツを大画面でやって動員をすることによって感動が生まれるとか、親しみやすくなるということもあるだろうし、大会等の配信をするなど、色々な手段があると思いますので、そのあたりを工夫することも必要だと思います。

(事務局)

○サイト内の色々な情報について、多様なものを組み込んでいくことで、興味をもっていただく内容にするとか、スポーツを始めるきっかけにさせていただくとか、大会の動画配信についても進めたいと思っております。動画配信については身近な選手に関する動画が、YouTubeなどで大会が配信されることによって興味が沸くということにも繋がってこようかと思っております。そうしたものをしっかり活用しながら、中身の充実、より親しみやすくすることに繋がっていきたいと思っております。

(矢野委員)

○先ほど寺村委員さんが仰ったようなスポーツ栄養の詳しい解説等について、実は、高知県スポーツ協会の中にスポーツ医科学委員会があり、そこが協会のHPで様々なトレーニングや栄養についてQ&A方式で丁寧に解説しており、見ていただくとわかるようになっていますが、うまく見つからないといったことがあるのではないかと思います。先ほどのスポーツナビとリンクしていますか。

(事務局)

○しっかりとサイトにリンクさせて、なおかつ、こちらのほうも別途こういう取り組みがあるという発信があるということをスポーツ課の方でも情報発信させていただいて、双方で効果的な情報が得られるようにしていきたいと思っています。

(生島委員)

○スポーツ NAVI の反省をどのように捉えているか。これが一つ目のポイント。二つ目のポイントとしては、誰に対して何をどのように効果的に発信するかを考える必要があると思います。つまりスポーツ情報もマーケティングが必要であり、そのなかで、どんな体制を構築するかに繋がるが、誰を巻き込むか何を巻き込むかはもちろんだが、それ以上にどんな人たちがどんな体制でやるかがポイントで、情報は頻繁に変えていかないと意味がなく、誰が常に発信していくかを築いていかなければならないと考えます。

大学教員としての提案になるが、先日、KSS（高知スポーツサミット）が開催されました。そこで高知工科大学、高知大学、高知商業高校の学生が、高知県のスポーツに対する課題やその解決策を発表する機会がありましたが、彼らは熱い思いをもっていると思うので、そうした学生を上手く巻き込んでもらい、学生なりの発信のしかた等を活用することもできます。いずれにせよ、こうした体制をスポーツ NAVI と絡ませながらやっていくことが大切だと思います。

(事務局)

○スポーツ NAVI の反省については、現状、スポーツ施設のサイトもあるなど情報が分散していることが一つの課題であり、中身がターゲットにささらない部分があるのではないかと認識しています。ただターゲットについては、現状では幅広い世代と捉えているので、自然環境を活かしたスポーツツーリズムの新たな情報発信サイトも合わせて、どこに重点を置くかしっかりと整理し、ターゲットを見据えたうえで中身の充実、または更新及び発信の仕方を、若い方を含め知恵をいただき組み立てていきます。

(刈谷委員)

○1点目は、オリンピック・パラリンピックで活躍した高知県や日本を代表して頑張った選手について、我々が何をどう考えるべきか、「勝った」という結果論ではなく、選手達がどのようにしてそこまで勝ち上がったのかというプロセスが大事であって、そこが県民会議のテーマや施策と合致しているのかがどうか重要です。素晴らしいことであり、選手の事例をどう生かしていくのかということが、我々の宿題ではないでしょうか。ベースはあったとしても、学校組織からは結果は出ていない。であれば、どういう風に解きほぐして、どこを目標に施策を検討していくのかが一つの宿題であり、方向性でもあると思います。

2点目は、新しい方向性としての県スポーツコミッションについて、民間と企業で立ち上がったものと、行政がどういう連携をしていくかが大事であり、柔らかな連携なのか、様子見なのか、このあたりについて、方向性の中でももう少し踏み込まなければいけないと思います。例えば、高知ユナイテッドSC(サッカー)や高知ファイティングドックス(野球)が、独自で講習会を開催するなど、動きは始まっています。開催イベントを知らませんでした、どこかでやってきました、という声が聞こえてきます。

3点目、合宿助成金について、例えば黒潮町はかなりNPO法人と連携して支援金を出していますが、黒潮町が潤っていると同時に、合宿を利用した選手・クラブチームがかなりあると

思います。具体的な金額は掴めていませんが、県の助成金と市町村における動き等をどう連携してスポーツツーリズムに繋げたり、リンクしていくのかを詳細に書いていないので、宿泊施設については専門外なので分からないが、そのあたりについてもう少し掘って教えて欲しかったです。

最後は質問ですが、土佐町の剣道で運動クラブの実例があったと聞いたが、他にそういう事例はあるのでしょうか。

(事務局)

○前段部分ですが、オリンピック・パラリンピックの選手の活躍につきましては、これまでの取り組み、どういう環境で、どのように力をつけていったのか、そういったものをまた、しっかり捉えまして、今後の計画の中に反映させて行きたいと思います。

あと、高知県スポーツコミッション、又はスポーツツーリズムに関連しても民間の団体や市町村との連携というところの中で現状をさらに把握をしまして、しっかりとより効果的な取り組みにしていくということに務めていきたいと思っています。特に高知県スポーツコミッションにつきましては、まだ動き始めたところですので、高知県スポーツコミッションのお考えもあるでしょうから、そこの色々とディスカッションを定期的にしていきながら、連携をしていきたいと思っております。

土佐町の取り組みの他にということですが、私が把握しているのは土佐町だけです。

(刈谷委員)

○高知市内ではないのか。

(事務局)

○土佐町の取組は県の教育委員会が国の事業を受けて実施しているもの。その国の事業を実施した取組は現在この一例であるとお聞きしている。

(刈谷委員)

○前回も申し上げましたが、2年間子どもたちは運動していない。体力は絶対下がっています。それを見越した対策を、今から高知県はとっていかなければならない。10年前に全国で最下位であったということを念頭に置きながら、是非、学校現場も頑張って欲しいなと思います。

(小林委員)

○企業として四国銀行は野球部があります。例年、ボランティアで子ども達を対象に野球教室を実施していますが、コロナ禍の状況で開催が厳しいが、野球教室だけでなく様々な取組を実施したいとは考えています。

スポーツツーリズムについて、高知県の活性化にも繋がりますし、観光PRを四国4県が連携して実施することはとても良いと考えます。また、サイクリングは日本でも競技人口も増加

していますが、欧米では人気のあるスポーツです。海外から見た場合、高知県というよりは四国というのが売りになると思います。4県が連携して実施するのは意義があり、どう連携して、どう情報発信していくのが大事だと思います。資料3「本県の特色ある自然環境を生かしたスポーツツーリズムの活性化」にも高知県のコースが出ているが、4県がバラバラで独自にPRした場合、4県の繋がりが見えないと思います。「宿」と「移動」と「食」の全てをパッケージにするなどして、各県のHPで発信することを検討し、利用する人が移動していけるようなストーリーを立てて情報発信をしていくのが大事なので検討をいただきたいと思います。銀行としても4県でアライアンスグループを組んでいるので、協力はしていきたいです。

(深見委員)

○高知銀行は子どもサッカー教室を地域貢献として行っています。民間団体等や企業等が核となる新たなスポーツ推進体制の連携が強化の方向性について、縦の線ではなく、横串の連携として、企業や団体の繋がりが少子高齢化が本県では重要だろう。

個人としても、子どもが小さい時には野球やサッカー教室の審判等をしていました。保護者ではなく企業の関わりとしてスポーツを手伝える風土が、横串の連携で今まで以上に実現できればよいと考えます。

(事務局)

○先ほどのサイクリングの取り組みの件ですが、各県四国各県でこうしたサイクリングロードの整備をしています。4県連携するという取り組みがありましてサイクリングアイランド四国連携協議会ありまして、定期的に会議を設けて4県が連携をしてPRするというを進めております。四国一周のサイクリングコースも設定しておりまして、そうしたものへの呼び込みも進めているところでございます。また、県単独ではなく四国でも引き続きしっかり連携したPRと環境整備にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

あと、企業スポーツに関しましても企業スポーツ連絡協議会をいうのがございますので、そういったところで情報発信、情報共有をしっかりとさせていただきながら、企業の皆様ともしっかりと連携を模索して進めていきたいと思っています。

(大坪委員)

○高知くろしおキッズの小学4年生から中学3年生のプログラムについて、年に1回は栄養のプログラムを実施しています。保護者にも理解していただいております。継続することが大切と考えます。

デジタル化について、現在スポーツ栄養研究会は21名から23名が所属しています。スポーツNAVIの中でスポーツ栄養学等の枠があれば、子どもたちや保護者に向けて栄養についての情報を発信する等、協力できることがあると考えます。

以前は東京オリンピックに出場した宮本選手にも栄養指導を行っていましたが、現在もSSCで栄養指導を実施しているが、継続して指導するまでに至っていないので、SSCでも選手を継続して指導できる体制をつくりたいと考えます。

SSCの活動について競技団体によっては温度差があるように聞くと、競技団体に核となる人材をつくりスポーツ医科学が理解されるよう、県主導で進めていただきたい。

(事務局)

○SSCの強化につきましては、競技団体の方々も非常に大変な中で競技に携わられていて、なかなか医科学という部分まできめ細かく対応することが難しい状況にあると思いますので、SSCとスポーツ課のほうで連携をしまして競技団体の方に活用していただきやすい内容でありますとかサポートの仕方、そういったものを工夫をしていきたいと思っております

(井奥委員)

○障害者スポーツについて、パラリンピックでは本県出身の選手に活躍いただいたが、今後子ども達にどのように伝えていくか、レガシーとして世代間で受け継ぐことが重要になってくると感じました。

メンタル面の強化についても、デジタルを活用して選手達の考え方を共有する場ができれば良いですし、デジタルの活用は中山間地域の対策にも効果的だと思いますので、進めていただきたいと思っております。

(事務局)

○障害のある方のスポーツ活動につきましては、特に情報の発信が大事だと思っておりますので、色々なものを活用して、今の取り組みも含めてしっかりと選手の活躍とか、地域地域での活動の情報なども含めてしっかりと情報発信ができればと思っております。

議事(3):その他

(濱田知事)

○一言お礼を申し上げたいと思っております。本日は皆様方たいへんお忙しい中お集まりいただき、また、熱心にご議論いただきありがとうございました。特にコロナ禍後という事もございましてリモートの意義も含めましてご教示いただきました。そして、オリンピック・パラリンピックの成果をどう生かしていくか、ここから良い教訓をどう生かしていくのかという点につきましても、また、コロナ禍で子どもたちのスポーツの習慣、運動の習慣などが少なからず影響を受けている中でメンタルも含めて指導をどのようにしていくのか、といった点も含めまして様々な角度からご議論をいただきました。

スポーツ参加の拡大、競技力の向上、そしてスポーツツーリズムを含めた地域の活性化、その3本柱の課題につきまして、本日いただきました意見を我々も受け止めさせていただき、関係団体との協議もふまえ施策のバージョンアップを図りたいと思っております。その過程で委員の皆様方にはいろいろなご助言やお力添えをいただく場面もあろうかと思っておりますが、引きつづきお力添えをお願いしたいと存じます。本日はありがとうございました。

以上